古賀総合病院　広報誌

フィオーレ

KOGA

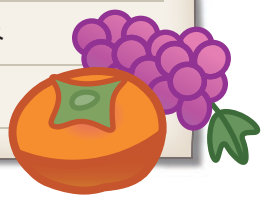
Vol.45

2026年10月号



TOPICS

■	あいさつ	社会医療法人同心会　古賀総合病院　副院長　木原 康
■	登録医の紹介	綾立元診療所　院長　立元 祐保 先生
■	院内ニュース	ダヴィンチの現状と今後について
		診療科紹介　整形外科
		世の中の変化とともに対応する産婦人科の取り組み
		第３回 KOGA 医療体験フェスタ



あいさつ

古賀総合病院　副院長　木原　康



先日“黒部の太陽”という昔の邦画を見ました。黒部ダム建設のために山腹にかなり長いトンネルを掘るという難工事が中心の物語で、三船敏郎や石原裕次郎など往年のスターが登場する作品（1968年作）です。この映画の中で出てくる現場作業員の数に圧倒されます。当時建設現場では大量の作業員が必要とされ、建設業の従業員はかなり多かったようです。その後建設業界は機械化がすすみ建設業の従業員はかなり減ったようです。その時代を知る人にとっては懐かしい光景なのだと思われます。

振り返って医療業界を見ると、病院の従業者はまだ多く対人業務ということもあり経営規模の割に多くの従業員を必要としています。医師、看護師、薬剤師など多くの国家資格を持つ人材が必要な特殊な組織でもあります。しかし、少子高齢化は進み働く人材の確保が（現在でも困難ですが）今後さらに困難になってくるものと思われます。30年後の未来から見たら“あの頃は病院でたくさんの人が働いていたのだね”と驚かれるのかもしれません。

当院が今年行った職員満足度調査では、雰囲気や人間関係の満足度は比較的高いものの処遇条件や勤務条件は低くなっています。業務量が多く疲弊感が高いのではないかと推察されます。患者高齢化で介護の必要度が高くなっていることや医療の専門性が進んでいることも職員の負担になっているのかもしれません。

これからは増えていく仕事をより少ない人員でこなすことが必須になってくると思われます。このためには業務改善（改革）が不可欠で、当院の最重要課題として取り組んでいるところです。

このたび国の補助事業を活用し、職員間のコミュニケーション改善のためスマートフォン500台、AI搭載インカム220台、巡視業務を軽減するため見守りシステム100台を導入予定です。これらを活用して業務の効率化を行うことにより職員の負担軽減をはかりたいと思っています。

また、生成AIの利用は言語生成領域における業務支援において実用化が進んでいるようです。医療現場において医師やその他の医療従事者が費やす事務作業の量は膨大で、患者さんの顔を見ずモニターばかり見て仕事をしているという状況になりがちです。生成AIの利用で電子カルテの記載、退院サマリーの作成、紹介状の記述といった文書作成業務の自動化はすでに可能になってきているようです。機械に任せられるところはやってもらうような業務改革が必要になってくるものと思われます。将来的にはフィジカルAIも導入するようになるのかもしれません。

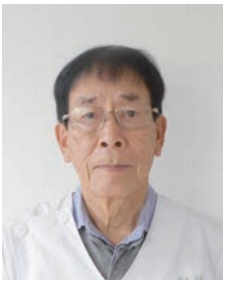
本年11月には新しいPACS装置（SYNAPSE）に更新予定です。この際SYNAPSE SAI Viewerが同時に利用可能になります。これにはAI機能を利用した各種の読影支援機能が付いています。臓器の自動抽出、椎体や肋骨のラベリング、肺結節検出、肺区域・肝区域・脳実質の区域などの自動抽出、肺結節のサイズの比較や性状分析、肋骨骨折の検出、病変を強調するフィルターなど多彩な機能があり、読影の効率化に寄与するものと思われます。画像診断の数は年々増える傾向にあり、一検査の画像数も多くなってきています。新しいSYNAPSEの機能をうまく利用して効率的に読影を進めていきたいと思います。

これからも時代に即した古賀総合病院に変化し、地域の医療に貢献したいと思いますのでこれからもご協力をよろしくお願いします。

綾立元診療所

〒880-1303
宮崎県東諸県郡綾町大字南俣 622-3
TEL：0985-77-0333

診療科目
内科



院長　立元 祐保　先生

初めまして、綾町の立元です、毎月「登録医のご紹介」のコーナーは楽しみに拝読しています。筆者の先生方の日ごろの活躍や現在の様子、古賀総合病院とのかかわり、場合によってはこれまでの研究の内容を読ませていただくことはとても参考になります。綾町という郡部に住んでいるため、お名前は知っているもののあまり交流のない先生方の様子を知ることになり、とても楽しいものです。先日はいつもお世話になっている地域連携室のT氏から電話があり執筆の依頼をされました。いつも私の無理を聞いて快く患者さんの受け入れ（そのためには主治医に頭を下げたり、怒ったり怒られたりいろいろの葛藤があるものと推察し感謝しております）をしていただいているお礼の意味で、拙文を投稿する次第です。

とは云うもののただ綾町で40年間患者さんを診てきただけで、これまでの先生方のような立派な経歴も目立った活躍もありません。私は綾町に生まれ、小・中学校時代を過ごしました、大学は理学部を出て県立高校で数学の教師をしておりました。そのころ、それまで綾町に4名おられた医師が高齢のために相次いで死亡され無医村（町）になりました、当時の町長は医師を探すために日本全国の医学部に医師派遣のお願いに回るのが大きな仕事だったそうです。そんな話を聞いて、それでは私が…と考えて改めて医学部を志した次第です。運よく（ほとんどまぐれで）医学部に合格し、10年間広島で過ごしました。大阪や福岡で研修をしたのち、現在地に開業しました。開業後はただただ日々の診療にいそしんでおります。内科だけでなく、小児科や整形外科の患者さんも来院されます。難しい症例は「困ったときの古賀総合病院頼み」と勝手に決めすぐに地域連携室に電話します。連携室の皆さんには申し訳ない限りです。私は、特養の嘱託医もしており、毎年15名くらいの死亡診断書を書きます。死亡原因は多くは老衰です。ところが先日初めて自分より若い人の死因に老衰と書きました。これにはさすがにショックでした（自分も老衰の域か…涙）。私はもうすぐ79歳になります、そろそろ後進に道を譲りたいとも考えておりますが、何の趣味もない身の上、診療をやめたら毎日をどう過ごせばよいか、それを考えると不安な思いもあります。そんなことを考えながら、毎日を過ごしております。病院の先生方、もうしばらくよろしくお願いします。



ダヴィンチの現状と今後について

外科　上原　拓明



当院では2024年11月に手術支援ロボット「ダヴィンチXi」を導入し、大腸がんを対象にロボット支援手術を開始しました。導入からまもなく2年を迎え、現在では大腸だけでなく、前立腺、胃、腎臓、肝臓、膵臓、さらに鼠径ヘルニアへと対象領域が広がっています。2026年3月には全診療科で累計100件に到達し、7月には大腸領域だけでも100例を超えました。2026年には、ロボット支援による肝切除、膵切除、鼠径ヘルニア手術を宮崎県内で初めて実施するなど、新たな領域への導入も進み、9月末までに168件のロボット支援手術を実施しました（図1）。

ダヴィンチ手術では、術者は鮮明な3D拡大画像を見ながら、人の手首のように自由に曲がるロボットアームを操作します。狭く深い場所でも繊細な操作ができ、従来の腹腔鏡手術と同様に小さな創で行えることが特徴です。一方で、すべての患者さんにロボット手術が適しているわけではありません。病気の状態や体格、これまでの手術歴などを考慮し、開腹手術、腹腔鏡手術、ロボット支援手術の中から、一人ひとりに適した方法を選択することが大切です（図2）。

当院が特に重視しているのが、新しい手術を安全に導入し、確実に定着させることです。新たな領域を開始する際には、十分なトレーニングや手術室でのシミュレーションを行い、必要に応じて経験豊富な指導医を招聘しています。また、ロボット手術は執刀医だけで行えるものではありません。助手を務める医師、看護師、臨床工学技士など、多くのスタッフが一つのチームとなって手術を支えています（図3）。

当院のダヴィンチ手術は、各診療科で経験を積み重ね、現在は導入期から次の段階へ進みつつあります。今後は各領域で手術の質をさらに高めるとともに、次世代を担う術者やスタッフの育成にも取り組んでいきます。

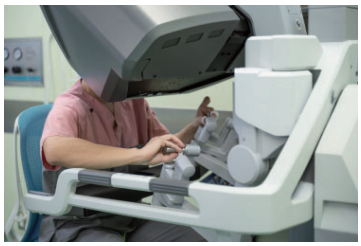
私たちの目標は、ロボット手術の件数や対象領域を増やすことそのものではありません。新しい技術を安全に取り入れ、患者さんにとってより負担が少なく、質の高い手術を、この宮崎の地で安心して受けていただける体制を築くことです。これからもチーム一丸となって、地域の皆さまにより良い外科医療を届けてまいります。

図1　当院のロボット手術件数

領域	2024年（11～12月）	2025年（1～12月）	2026年（1～9月）	累計
大腸	4	57	49	110
前立腺	0	18	19	37
胃	0	3	2	5
腎	0	1	1	2
肝臓	0	0	9	9
膵臓	0	0	3	3
鼠径ヘルニア	0	0	3	3
延べ症例数	4	79	86	169

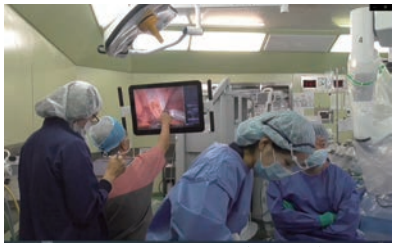
※大腸・腎の重複がん1例を両領域に計上しているため、実手術件数は168件です。

図2　コンソール操作



サージョンコンソールを操作する術者。高精細な3D画像を見ながら、ロボットアームを繊細に操作します。

図3　多職種連携＋プロクター招聘による指導風景



多職種連携とプロクター（指導医）による指導の様子。新しい術式の導入時には、十分な準備と専門的な指導のもと、安全な導入に取り組んでいます。

整形外科　診療科紹介

整形外科　泉　俊彦

当院整形外科は2025年10月から新体制となり院内準備を進め、2026年1月より手術治療を開始しております。骨折などの急性外傷の保存治療から手術治療まで行える環境が整い、救急症例受け入れ数が増加してきています。

慢性疾患（脊椎疾患、変形性関節症など）に対しては、症例によっては早急な手術を勧める場合もありますが、まずは保存治療（薬物治療、リハビリ）を基本とし治療を行い、患者さんの生活・仕事状況等を踏まえ手術を含めた至適な治療法・治療タイミングを相談し対応しています。

手術は、低侵襲で早期回復が期待できる関節鏡下手術から、機能回復を目的とした人工関節手術まで、専門性の高い治療を行っています。脊椎手術に関しては現状対応困難で、必要な方は脊椎専門医に紹介対応しております。

またスポーツ外来を予約制（木曜日午後　※小学～高校生は紹介状不要）で実施しており、競技レベルを問わず、学生から社会人・競技アスリートまで幅広く対応しています。スポーツ外傷・障害の診断・治療（保存治療、手術治療）、復帰時期の判断、再発予防を重視した治療計画、アスリートのコンディショニング管理など、医師・理学療法士が連携し、競技特性を踏まえた専門的なサポートを行っています。

当科は地域医療支援病院として、総合病院の整形外科として急性期対応や専門性の高い分野を担い、状態の安定した方や骨粗鬆症などの継続治療は役割分担し地域医療機関の先生方のご協力を仰ぎながら地域医療に貢献できるよう努めてまいります。

（時代の流れに置いていかれまいと初めてAIでイメージ図を作ってみました。画像などの正確性に問題ありますが参考程度に掲載します）



世の中の変化に合わせて　産婦人科も変化しています

産婦人科　師長　田中　優子

妊娠・出産を取り巻く環境や、女性を取り巻く社会は、時代とともに少しずつ変化しています。それに伴い、産婦人科に求められることも変わってきました。当院でも、皆さまの声やニーズに耳を傾けながら、「安心して出産を迎えられること」はもちろん、「入院中を少しでも心地よく過ごしていただけること」を大切にし、さまざまな取り組みを行っています。

昨年度からは、無痛分娩を開始しました。出産に対する不安や痛みへの感じ方は人それぞれです。出産方法についても、ご自身の希望や生活背景に合わせて考えたいという方が増えています。無痛分娩についても、正しい情報を知っていただいたうえで、ご自身に合った出産方法を考えていただけるよう、今後も情報提供に努めていきたいと思います。

また、今年9月からは、個室にReFaのヘアドライヤーやシャワーヘッドを導入しました。出産後のお母さま方が、少しでも快適に過ごしていただけるよう、入院中の環境にも目を向けています。





さらに、「Mama's Tea Time（ママティー）」として、デカフェの紅茶やコーヒー、おやつをご用意しています。赤ちゃんのお世話や授乳などで慌ただしく過ごす中でも、ほんのひととき、お茶を飲みながらゆっくりできる時間を持っていただけたらと思っています。産後のお母さまにとって、心と身体を休める時間も大切な時間です。

妊娠・出産について学ぶマザークラスでは、現在「妊娠・分娩・母乳・育児」をテーマに開催しています。今後は、皆さまのニーズに合わせて、無痛分娩や帝王切開についても知っていただける機会を設けるなど、より内容を充実させていきたいと考えています。

そして、産婦人科は妊娠・出産だけに関わる場所ではありません。毎週火曜日には夜間のHPVワクチン接種も行っており、男女ともに受診していただける体制を整えています。ライフステージに応じた女性・男性の健康を支えることも、私たち産婦人科の大切な役割だと考えています。

これからも、時代の変化や皆さまの声に合わせて、私たち産婦人科も変化していきます。「ここで出産してよかった」「相談してよかった」と思っていただけるよう、スタッフ一同、安心と心地よさを大切にした医療・看護を提供してまいります。







第３回 KOGA 医療体験フェスタ

古賀総合病院　広報担当です。

当院では、医療に興味を持ってもらうため、中学生を対象とした第3回KOGA医療体験フェスタを2026年8月22日（土）に開催しました。今回は、県内から35名の中学生が参加し、医師、看護師、助産師、薬剤師、診療放射線技師、臨床工学技士、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の体験を行いました。

特に医師、臨床工学技士、薬剤師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士は、実際にそれぞれの職種の方々が働いている場所で体験を行いました。

医師、臨床工学技士の体験では、手術室で手術支援ロボット「ダヴィンチ」の操作と腹腔鏡手術機器を使用して、ビーズや輪ゴムを掴むなどの腹腔鏡手術体験、薬剤師は、軟膏とクリームを混ぜ合わせる軟膏調剤体験、入浴剤を粉薬に見立てた注射調剤体験、お菓子を薬に見立てた調剤体験や一包化体験、リハビリ体験として理学療法士は、バランス訓練やストレッチ体験、作業療法士は、体が不自由な方が片手でも楽に食事しやすくするための自助具の必要性を体験、言語聴覚士は、実際にとろみ剤を使用した嚥下体験、診療放射線技師は、診療放射線技師についての説明やバイプレーン式血管撮影装置の操作、黒い箱を一般（X線）装置にセットし、職員が実際に一般（X線）撮影をした後、箱の中に何が入っているかを当てるゲームなど思考を凝らした内容でした。

看護師、助産師は、実際に個人防護具の着用体験、人形を使用しての沐浴体験やバイタルチェック体験、臨床検査技師は、顕微鏡を使用して血液細胞の観察体験や模擬腕を使用して実際に針を刺しての採血体験を行いました。

参加した中学生からは、「実際に医療機器を操作や普段は入ることのできない場所に入ることができ、とても貴重な体験ができました。将来、医療関係の仕事につきたいと思います。とても楽しかったです。」など感想を聞くことができました。

今回、さまざまな職種を体験してもらいました。これからもこの活動を継続し、たくさんの中学生に将来、医療の世界で働きたいと思ってもらえたらと思います。








理念

「地域の皆さんに納得していただける医療・介護・福祉サービスを継続して提供します」

基本方針

1. 質の高い組織マネジメントの遂行
2. 設備・環境の改善
3. 職員の資質向上（人材育成）
4. チーム医療の推進
5. 多様性と思いやりのある医療・介護・福祉の提供
6. 健全な経営管理（継続可能な事業経営の構築と対応）

地域医療連携室からのご案内

＜今後の研修予定＞

◎ 研修のご案内は随時お知らせしてまいります。

＊ お問い合わせ直通：0985-39-8952　FAX：0985-39-0372　Email：kgh-renkei@kgh.or.jp

＊ 受付時間：平日 8時30分 ～ 17時00分

＜お知らせ＞

◎ 甲状腺外科、泌尿器科、皮膚科は予約制です。患者さんから病院あてにお気軽にご連絡ください。（※）
古賀総合病院代表：0985-39-8888　（平日　14：00～17：00）

◎ 消化器内科、循環器内科、内分泌代謝内科、呼吸器内科は予約制です。
患者さんから内科外来あてにお気軽にご連絡ください。（※）
内科外来直通：0985-39-0412　（平日　14：00～17：00）

※ 急患に関してはこの限りではありません。

関連施設



【フィオーレ KOGA 看護専門学校】
〒880-0879 宮崎市宮崎駅東 2 丁目 2-10
TEL　0985-38-8010　FAX　0985-38-8020

【介護老人保健施設　春草苑】
〒880-0041 宮崎市池内町数太木 1749-1
TEL　0985-39-8899　FAX　0985-39-8978

【フィオーレ KOGA】
〒880-0812 宮崎市高千穂通 2-7-14
・古賀駅前クリニック (1F)
TEL　0985-22-2111　FAX　0985-23-9598
・古賀駅前クリニック健診センター (2F)
TEL　0985-22-2112　FAX　0985-32-0317
・メディカルフィットネスフィオーレ (3F)
TEL　0985-22-2113　FAX　0985-22-2791

【古賀在宅ケアセンター】
〒880-0041 宮崎市池内町数太木 1763-3
・古賀訪問看護ステーション　あおぞら
TEL　0985-39-8127　FAX　0985-39-9160
・居宅介護支援事業所　古賀ケアプランセンター
TEL　0985-39-9150　FAX　0985-39-9160

発行元：古賀総合病院　庶務課　　2026 年 10 月発行
〒880-0041 宮崎県宮崎市池内町数太木 1749-1
TEL 0985-39-8888　FAX 0985-39-0067
E-mail info@kgh.or.jp